



優良賞

第34代ミスゴミ

許 倩

X U Q I A N

「ミスゴミ」という言葉を聞いて、皆さんはどんなことを想像しますか？この称号を聞いた後で「何だそんなことか」と思われるかも知れません。でもこの平凡な称号は、私の人生を変えました。「第34代ミスゴミ」になった日から、私の日本の生活が始まりました。

私は日本へ来る前、北京で8ヶ月間日本語や日本の生活習慣をみっちり勉強しました。私の組合は、入国するまでに色々な責任者を決めなければなりません。例えば、体温管理の責任者やお通じの責任者などがあります。そして私はゴミの責任者に選ばれたのです。組合内では通称「ミスゴミ」と呼ばれています。私の組合の研修生の受入れが、私達で34回目となるので、私とその「第34代ミスゴミ」という訳です。「ミスゴミ」の仕事はゴミの分別をしてゴミの収集日に出すことです。全然経験のない私は、いつも頭からゴミのことが離れず、毎日落ち着きませんでした。

日本はゴミの分別が複雑で厳しい国だと聞いていました。日本に来て驚いたのは、ペットボトルや発砲スチロールトレイなどを集めて再利用することです。以前私は何も考えず捨てていました。でもこれからはこの方法に協力したいと思います。

中国と日本はゴミの事情が全然違います。ですから私はなかなか慣れませんでした。ゴミを

出す時は、間違えていないかどうかチェックをします。私はこの任務をしっかりと果たそうと頑張りました。この位のことができなかったら何もできないと思いました。でも汚いゴミを触るのにはやっぱり抵抗がありました。

でもある時から、私の考え方が変わりました。その日はなぜか燃えるゴミがとて多い日でした。私はその内の1袋にゴミをいっぱい詰め過ぎていたのです。紐で縛ることもできませんでした。どうするか分からなかった時、組合の人は自分の手を袋に入れて、他の少ない袋にどんどん移し変えたのでした。この行為は私をとて驚かせました。そしてとて不思議でした。一番衛生を気にする日本人も自分の手でゴミを触ることを知ったからです。

それ以降、私の考え方も段々変わり始めました。私は初めて手でゴミを分けました。そしてゴミ箱もきれいに洗いました。洗った後のゴミ箱が、きれいな茶碗の様に感じたのにはビックリしました。やってみると嫌な感じは全然ありませんでした。何でも表だけを見て判断することは少し危険です。裏を見ると全然違うことがあるからです。皆さんの中でもゴミが嫌な人がいると思います。でもやってみると、新しい発見があるかも知れません。

私は今回「第34代ミスゴミ」として色々なことを学ぶことができました。ゴミも住むところが変われば、やり方も変わります。私はどんなやり方でも対応できると思います。私はこの称号にとて誇りを感じています。

- ・区 分 研修生
- ・国 籍 中国
- ・職 種 婦人子供服製造
- ・受入れ企業 株式会社東京レディースファッション
- ・受入れ団体 P N J 事業協同組合